

職場でアピール 両立ムード作り

イクメンが集うNPO法人「ファザリング・ジャパン」(東京)の九州支部を仲間3人で設立。秋には、新米パパに家事や絵本の読み聞かせのこつなどを教える「パパスクール」も開講するという。

しかし、中村さんも最初からイクメンだったわけではない。鹿児島県内で24時間態勢の薬局に勤めていた5年前は、仕事に疲れ、家に帰るとビールを飲んで寝ていた。生後6か月だった基力くんは、ふれあう機会の少ない父親を見ると大泣きした。福岡市出身の妻麻里子さん(30)

は知り合いのいない土地で孤立感を深めていたそう。やがて中村さんは体調を崩して休職。約5か月間、ゆっくり家族と向き合ったことが転機となった。オムツ替えに慣れ、離乳食を与えるのも面白くなった。麻里子さんの買い物中も、基力くんと2人きりで過ごせるようになった。

「父親の疲れた背中より、仕事も育児も、社会貢献も楽しむ姿を子どもたちに見せたい」。転職し、福岡市に転居して4年。NPO法人「子どもとくすり」を設立し、薬の情報を母親らに提供する活動もしている。午前4時半に起き、子どもたちが起き出す午前6時までが自分の時間だ。

同世代の父親たちも積極的に育児にかかわる人が多い。「でも『やってます』と表だって言わないのが九州男児」。父親が、子どもの風邪や行事で仕事を休むとは言いづらい職場も多い。「子どもの写真を飾ったり、子育て中の同僚女性と育児の話をしたりして、普段からイクメンをアピールし、誰もがいざというとき帰りがやすい職場の環境を作りたいですね」と話す。

き、夫は仕事に逃げる、という悪循環に陥ってしまう。

職場の飲み会だと、ほとんどの人がその時間までに仕事を終え、職場を出る。「〇時までには帰る」と決めて努力すれば、早めに帰る日を確保できると思う。

私は娘が生まれ、育児にかかわりたいと思うようになって仕事の能率が上がった。午前5時に起き、日中は効率的に仕事を進め、夜に子どもと過ごす。

また、そうした父親の努力を応援するような職場の雰囲気も必要だ。仕事と家庭を両立できる社会づくりを呼びかけていきたい。



もイクメンに

頑張ったお父さんへ…

◆九州・山口パパサミット
20日午後2時、福岡県大野城市曙町のまどかぴあ。「九州男児をイクメンに」をキャッチフレーズに、各県の父親代表が子育て事情などを語り合う。参加無料。定員40人。問い合わせはファザリング・ジャパン九州支部(080・2707・7373)へ。



九州の百貨店5社が作ったポロシャツについて話す小松さん



紳士雑貨売り場に並ぶ男性用の日傘。UVカットの晴雨兼用型が主流だ(福岡市の岩田屋本店で)

ポロシャツ、日傘 贈り物に人気

父の日の贈り物も、父親の「家庭回帰」傾向が強まるなかで変化している。

「以前はネクタイが主流

。昨年の商戦では、売上げの約6割をポロシャツが占めた。今年は、博多大丸など九州の百貨店5社が9

本市)、トキハ(大分市)、山形屋(鹿児島市)。1万円前後の商品が中心。ホームページ(<http://www.kyushu-le.com/>)も開設している。

男性も健康や美容に敏感

になり、疲労を促進したり、

しみやしわの原因になったりするUVの防止対策が浸透。岩田屋本店(福岡市)

の紳士雑貨売り場では、UV

防止加工をした晴雨兼用

日傘が主流だ(福岡市の岩田屋本店で)